

平成22年度小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第2回アドバイザー会議 議事概要

平成23年2月28日（月）13：00～16：00
（社）日本森林技術協会 3階大会議室

- 1 オガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・現在の利用頻度であれば特に問題はないが、世界自然遺産に登録された場合は、利用頻度が増加する可能性があるため、来年度も月1回のモニタリングは実施した方がよい。

- 2 聳島ルートの試行状況について
 - ・オガサワラスナハキバチの営巣地はまだ不明であるのが、試行報告書において、「オガサワラスナハキバチの営巣地」が「変化なし」にチェックが入っているのはおかしい。
 - ・聳島ルートの上陸地点周辺は、オガサワラスナハキバチの営巣地が広く分布していることから、営巣地が確定できた後は、別の場所から聳島に入ってもらえる可能性もある。
 - ・試行のスタートしては特に問題はないと思うが、今後、ルート上にオガサワラスナハキバチの営巣地が見つかった場合は、ルートをずらす必要がある。また、世界遺産に登録され、利用者数が増えるようであれば、その対応も必要である。

- 3 平成22年度固有森林生態系の修復事業等の実施結果及び平成23年度の事業予定について
 - ・石門の平成23年度アカギ稚幼樹採取箇所については、アカギの母樹が完全には駆除されていないので、今後の駆除計画で駆除を検討してほしい。
 - ・堺ヶ岳周辺のアカギの下層では、木性シダの枯死が見られる等影響が出てきていることから、次の駆除優先地域に位置付けて、重点的に実施してほしい。
 - ・乳房山の稜線部もアカギがワダンノキ等を圧迫しつつあることから駆除の優先度が高いと思うので、今後検討してほしい。
 - ・弟島で平成22年度に駆除予定木調査を実施した箇所は、固有トンボの生息地として非常に重要であり、他の固有昆虫も多いことから、早急に駆除に着手してほしい。
 - ・堺ヶ岳、乳房山は固有昆虫にとっても重要な生息地であるので、優先的に取り組むべき地域である。
 - ・駆除は、保全すべき種が多いところから優先的に実施するというのが第一である。様々な分野の情報を総合して事業の着手順を検討してほしい。
 - ・向島で平成23年度にモクマオウの駆除予定木調査と駆除が予定されている箇所は、カワラヒワの生息が確認されており、モクマオウを駆除してしまうとカワラヒワの食べ物が不足する可能性がある。また、カワラヒワの個体数が属島で少ない理由の一つはネズミの補食圧の可能性があるので、向島でカワラヒワが集中的に利用している場所については、ネズミの駆除をして個体数を確保できた後にモクマオウを駆除するのがよい。
 - ・来年度、父島の都有地で外来植物の排除を実施する予定であるが、基本的には国有林の実施箇所の隣接地を実施していきたいと考えている。

4 人工水場の取扱いについて

- ・アカギの駆除前後の沢水の変化等を把握するため、定点を決めて写真撮影をしたり、水位計を設置してチェックするなど、水系のモニタリングを検討したらどうか。
- ・母島の年降水量の推移からは降水量の減少傾向は見られないが、水が一年中あることが重要であるので、過去と比較して季節的な降雨パターンに変化はないか検討することも必要である。
- ・世界遺産に登録された場合はより自然環境に興味のある観光客が増えるので、人工水場の設置理由をガイド等に周知して欲しい。

5 小笠原諸島におけるモデルプロジェクトの森について

- ・東島はアナドリの一大繁殖地でもあり、一部の個体がギンネムの下で繁殖している箇所もあるので、繁殖状況に配慮しながら実施してほしい。
- ・ジュズサンゴも特にセグロミズナギドリが繁殖している場所で、急に一昨年くらいに増えてしまったことから、木本に限らず駆除作業を進めて欲しい。